

# ”サドガエル“の新種記載と現状について

新潟大学 朱鷺・自然再生学研究センター

## ■はじめに

平成24年12月、新潟大学 朱鷺・自然再生学研究センターの関谷國男せきや くにお協働研究員らの論文が、学術誌（ズータクサ）オンライン版に掲載され、佐渡島に生息するカエルが新種として認められました。

このカエルは”サドガエル”と命名され、これまでに佐渡島でしかみつかっていません。佐渡島の生きものは本州と共通するものがほとんどであり、数少ない固有種の発見は、島の生きものの成り立ちを考えるうえで大変貴重な存在です。当センターでは、トキ野生復帰をもとにした自然再生、地域社会づくりを目指しており、固有種サドガエルについても、保全を視野に入れた研究を進めています。

ここでは、サドガエル新種記載の経緯と現状についてお知らせします。

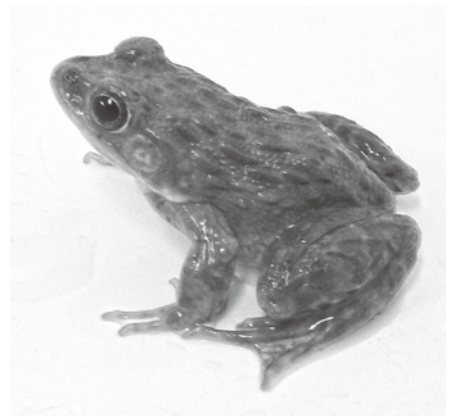
## ■新種記載までのあゆみ

平成9年、新潟大学の学生実習のために佐渡島の水田を訪れた関谷國男助手（当時）が、ツチガエルに似たお腹の黄色いカエルを発見。当初はツチガエルの地域変異と認識していましたが、翌年に聞いた独特の鳴き声から新種の可能性を考え、両生類の遺伝学が専門の広島大学らのグループと共同研究が始まりました。

その結果、ツチガエルと比較して、外見や鳴き声が異なること、雑種は子孫をうまく残せないこと、遺伝子配列の違いが大きいことから、新種であると判断されました。

## ■サドガエルの特徴

体長は4 cmから5 cm。背中にはこげ茶色で、皮膚はでこぼこしています。本州や佐渡島の山間部にみられるツチガエルに似ていますが、比べるとお腹と腕や足の内側が黄色く、背中のでこぼこはやや滑らかです。カエルとは思えないとても小さい音量で「ビューン、ビューン」と独特の声で鳴きます。



サドガエル

## ■分布・生息環境の状況

国中平野を中心に、その周辺の海岸地域の水田や山沿いのため池でみつかっています。国中平野では、限られた田んぼや水路でわずかにみられるため池や川では見つかっていません。

サドガエルは初夏に繁殖し、生まれたオタマジャクシはそのまま冬を越して、翌年の夏ごろにカエルになります。そのため、中干しや収穫期、冬場など、一度でも乾燥する水田は、オタマジャクシが生き延びるには難しい環境です。

佐渡市で進む環境保全型農法の取り組みは、サドガエルのように水辺環境に強く依存した生きものの生息環境の改善にもつながっていくかもしれません。

## ■サドガエルの生息情報をお寄せください。

新潟大学では、平成24年度に佐渡市動植物生息実態調査の委託を受け、希少種、固有種、佐渡島に特徴的な種について、保全等の観点から重点的に情報を集めています。サドガエルは、生息環境が限られるとみられ、情報が不足した種のひとつです。生息情報をお持ちの場合、新潟大学 朱鷺・自然再生学研究センター（☎0259-2213885 担当…小林）まで情報をお寄せください。その際、確認用のカエルの写真をご用意頂けると幸いです。

地域の自然を把握し、自然再生と豊かな島づくりを目指すためにも、ご協力をお願いいたします。

## 佐渡の水田でみられる茶色いカエルの見分け方

